

## 共生社会

私には、3つ下に妹がいます。妹は自閉症と知的障がいをかかえています。夏休みの弁論作文の「障がいのある人とない人との心のふれあい体験を広げよう」という募集テーマを見て、妹との関係についてもう一度考えました。

私が妹と過ごす中で大切にしてきたことは、いつも通りでいることです。妹が生まれた時、私は嬉しかったです。また、昔から妹を受け入れなければいけないという意思が強くありました。妹がどういう世界を生きているのか私にはわからないからです。

私をもっと幼かった頃は、妹に特別優しくすることが良いことだと思っていました。けれど、それは違うのではないかとある時思いました。自分が成長して、相手の立場でどう思うか考えたりするようになってから気づいたことでした。小学生の時、足が遅いからという理由で、友達が私にハンデをつけてくれたことがありました。優しさからだったと思います。でも正直、対等に接してもらえなくて寂しい気持ちになりました。だから、障がいがあるから特別な関わり方をするのではなく、いつもの自分でありのままでもいいと思いました。

ありのままの自分で関われば良いと思う一方で、妹に苛立ちを感じることもあります。その気持ちは妹が成長すればする程大きくなっていった気がします。私が作業をしているのに電気を消されたり、何度注意しても車の窓から手を出すことをやめなかったり、前までならもっと簡単に許せたと思います。けれど今は、毎回イライラしてしまいます。言い方がきつくなってしまって、口に出してすぐ反省する事もよくあります。何でこうになってしまうのか自分でもわからなくて、自分が嫌になっていました。

危険なことやされて嫌なことを、注意してもやめない時に相手に腹が立つのは当然ですが、相手に障がいがあった場合、苛立つ自分を悪く思ってしまう。

けれど、改めて考えればその気持ちは当たり前のことなのです。もちろん配慮はすごく大切なことだと思います。けれど、特別扱いと配慮は違います。相手の立場に立って、心を配ることが配慮です。

毎日の生活の中で、妹の突然の行動に何を考えているのかわからないと思う時もあります。急に走り出したり、今まで機嫌が良かったのに気づいたら泣いていたりするのです。

しかし、わからない理由を障がいのせいにして切り捨てるのではなく、歩み寄りが大切だと思います。そして、相手の気持ちがわからないことは、障がいの有無に関わらず誰との間にもあります。障がいのない人同士ならわかり合えて、そうでなければ不可能ではないのです。

どんな人と関わる時も配慮や思いやり、また、相手を知ろうとする心が一番大切だと思います。障がいの有無で相手を見るのではなく、一人の人間同士として互いを尊重し合うことが、何より大切なのです。